

国字問題研究会

ニューズ

1991年新年号 1991年1月1日発行 題字 見城慶和

発行=国字問題研究会

年間4回発行

8ページ 200円

通常号 頒価100円 (会員の購読料は会費に含む)

郵便振替 東京2-166984

年会費 2000円

要。

あなたとくらせるものなら
なんにもいらぬ
わたしの願いは
ただそれだけよ
.....
『愛の讃歌』の一節である。このこと
ばが歌える歌い手、これと共演するピア
ニストによって
演奏されると、
そのことばの持
っている非論理
性などどこかに
いつてしまつて
その歌にききほれてしまふ。ほんとうは
演奏される前に半分ぐらい歌に吸い込ま
れる気分にさせられているのだが――
装飾のとどいたホール・すわり心地のよ
い観客席・みがかれたグラランドピアノ・
そしてはなやいだ歌い手の衣装――
現実、あなたとくらすには、金が必

さざなみ

あなたとくらせるものなら

なんにもいらぬか

――漢字教育の花が開くとき――

田村利樹

育ではない。

ドリル中心は、教

化だ。

は、漢字教育の科学

つぎに必要なこと

漢字精選しかない。

漢字教育。真剣にできるものならなんにもいらぬか。否。漢字教育の力はふだんにみがかくものとして、いま、いちばん必要なものは時間だ。漢字教育をする時間だ。漢字一字の指導に十五分かかかる。五年の一九五字は、六五時間必要。これは五年の国語の時間の三分の一。これじゃ、国語科が教えられない。結局、教育漢字精選しかない。

装飾のとどいた教室・はなやいだ衣装
.....も、とはいわぬが、せめて時間と
科学化が必要だ。

今の漢字教育が、いかに前近代的であるか。『愛の讃歌』を歌い・聴く人たちの心とずいぶん離れてしまっている。

(たむら・としじゆ)

子どもの叫びにこたえる

漢字教育を

小学校

紺屋 富夫

漢字

寺西 晴美

「ふうー。」
 いくら頭がよくても
 四百四十二文字の
 漢字を覚えてられない。
 まだまだ 漢字はたくさ
 んあるし
 今までならった漢字が
 四百四十二文字だからね。
 それに
 一つの漢字について
 また 読み方が
 たくさんあるから ↓

↓
 これの 一、三、四倍く
 らいになってしまいかも
 ……
 こんな めんどうなもの
 を どうして 中国から
 引っぱり出して来たのか
 な。

詩集『町田の子』にのった
 作品から、漢字についての子
 どもの悲鳴が聞こえてくる。
 私は、ここ数年低学年を担
 当しているが、子どもの反応
 が変わりつつあることに心配
 している。数年前までは漢字

の学習というと、子どもたちは目を輝かせた。しかし、このごろは、時に、

「また漢字？」

と不快な表情を見せる子が出てきた。特に、今年度からは新指導要領への移行措置によって、教科書外漢字も指導すべきこととなったため、その傾向はいっそう顕著である。

職員室の声

- 「漢字を教えておけば国語は大丈夫だ。」(国語軽視派)
- 「漢字でしごく」(残酷趣味派)
- 「漢字の指導に時間をとられて、他のことがさっぱり教えられない。」(嘆き派)
- 「そのうちに覚えるだろう」

から、特に指導はしない。(無責任派)など様々な考え方があふれる。しかし、いずれも国語教育の中で漢字の位置づけが正当ではない。とは言え、個々の教師にのみその責を負わせることはできない。指導漢字が多すぎることで、また職場が忙しすぎるために漢字教育について十分研究できないからである。

雷になる親

かん字のテスト
 小山 太一
 「きょう かん字テスト あったでしょ。」
 お母さんが
 ならみながら いった。
 いやなよかんがしてきた。
 にげようとしたが

足首をつかまえられてしまった。

ガミガミがはじまった。

まるで ぼくのうちに

かみなりが おっこちた

ようだ。

おかあさんは

「太一なんか たよりに

しないわ。」

「おねえちゃんを たよりにするわ。」

っていうんだ。

しつれいだな。

心のやさしいおかあさん

だったら

そんなこといわないよ。

学習漢字を覚えられない子

どもは、学校だけでなく自宅

へ戻ってもおびえていなければ

ならない。漢字のために家

庭を安住の地とすることがで

きない。親も雷となり、わが子の人格さえも否定してしまふことになる。漢字が親子の間を疎外する障壁にさえなりつつある。小山君にとって漢字はイヤなもの代表だろうと思う。

子どもへの配慮を

「職員室での声」で例をあげ

たが、指導上の問題点も多い。

○教材(単元)終了時まで

漢字の読み書きをできるように

にしなければならぬと考

ると、新出漢字の多い教材

では、漢字指導のみで時間を使

ってしまうか、覚えきれない

ままに過ぎてしまうことにな

る。市販ワークを使っている

場合には、教師も教えこむか、

指導なしに練習を強いること

になってしまふだろう。

○教えっぱなしも身につかない。一日で半分程度、三日たてば三分の二程度は忘れてしまふことが心理学で明らかになっていく。そこで、様々なくふうをして忘れをくい止めなければならぬ。

○まちがった漢字を二千回も

書けという非人道的な例もあ

る。子どもにとっては全く非

教育的なノルマに過ぎない。

漢字アレルギーの子どもを増

加させるだけである。

○漢字書き取りテストで必要

以上に一点一画を厳しく採点

する例もある。文化庁からも

字体の許容度についてわざわ

ざ具体例をあげての説明があ

るにもかかわらず、細かい部

分でバツにして子どもに返す

場合が見受けられる。他の字

と混同されるおそれがあった

り、一般に明らかに誤字と認められたりする場合以外は許容すべきである。

しかし、子どもの漢字を許容することと指導の際に許容漢字で指導することとは別である。指導の際には、教科書にのっている字体で正しく指導しなければならない。

指導要領の問題性

以上のような、子ども・親

・教師を悩ませ、混乱させて

いる元凶は、指導要領である。

それを具体的に見ていくと、

①指導漢字数過多、②指導字

種の問題、③ひらがな・カタ

カナのつめこみなどを指摘す

ることができず、紙幅が尽き

てしまった。問題の打開策に

ついては別の機会に明らかに

しよう。(こんや・とみお)

新指導要領の問題点と

効果的な漢字指導法

中学校

三宅 研 太郎

一、新指導要領の問題点

(一) 新指導要領の内容

新指導要領中学校国語漢字指導の三年生の部分を現行のものと比較してみます。

「現行」(ア)、第二学年までに学習した常用漢字の読みに慣れ、更にその他の常用漢字の大体も読むこと。(イ)、学年別漢字配当表の漢字を主として、一〇〇〇字程度の常用漢字について使い慣れること。なお、それ以外に上記アで学習した常用漢字についても、必要な場合、適切に用いるよう

に努めること。

「新」(ア)、第二学年までに学習した常用漢字の読みに慣れ、更にその他の常用漢字の大体も読むこと。(イ)、学年別漢字配当表に示されている漢字について使い慣れ、漢字を文章の中で適切に使うようにすること。(内容の取扱)イにおいて書くことを指導する漢字以外に、アにおいて読むことを指導する漢字についても、必要な場合、適切に用いるように努めさせること。

(二) 読みの指導の問題点

新指導要領は漢字の読みに

ついて現行のものと同じく、

「三年までに常用漢字一九四

五字のだいたい読めるようになること」といつている。常用漢字のほとんどを中学で新

出漢字として提出しているこ

とが現在の中学での漢字指導を混乱させている一番大きな

原因なのだが、それを改めていないのである。中学では各

学年三〇〇から三五〇字新出漢字が提出され、週四時間(

一年だけは書道も含めて週五時間)の授業時間内に指導す

るのはとても無理な状況がある。年間の授業数を三七週と

しても、一週間に一〇字近くを教えねばならない。教え、

練習させ、定着させるのをすべて含めて一字に五分かける

としても、一時間で一〇字である。毎週一時間を漢字指導

にあてなくてはならなくなる

。これはとても無理である。

だから、実際には、目にふれさせる程度であれば試験を行

い家で勉強させるくらいですませているのが実状である。

また、常用漢字のなかには中学生の言語能力の発達を考え

たとき、教えるのは無理と思われる難漢字が大量に含まれ

ている。一例をあげると、拐・褐・遮・宵・頻・褒・銑・

脹・匆・薪などがあるが、これら以外にもたくさんある。

これらの字は生徒は学習に抵抗感を持つし、教師は教える

ことに疑問を持つ。中学生に覚えて使えるようになってほ

しい字と現在は学習する必要のない字とが教科書には区別な

く入り交じって提出されているのである。また、これらの

低使用度漢字は教科書の普通の教材文には出てこないの

で、「漢字の学習」「言葉の窓」「文法」などの単元に無理に押し込まれている。光村出版三年国語では、新出漢字二五二字のうち一八一字が「漢字の学習」などの単元にてで

くる。こんなに不自然なかたちで新出漢字の配列がなされているのである。この根本原因は常用漢字のほとんどを中学で教えるようにする文部省の考えにあるのである。

(三) 書きの指導の問題点

漢字の読みについては現行のものが「学年別漢配当表の漢字を主として一〇〇〇字程度」となっているの

にたいして、新指導要領では「学年別漢字配当表に示されている漢字」とかわっている。

これまでは「主として」とか「程度」とかあいまいな表現であり、一〇〇〇字のうち

にどの字とどの字がはいのかしめしていないかったため、教育漢字以外の常用漢字の多くを中学教師は生徒に書くことを要求していた。この意味で

「学年別漢字配当表の漢字を書くこと」とはつきり限定したことは一歩前進である。

二、効果的な漢字指導法

(一) 中学校必修漢字表案

国字研では、中学校卒業までに書き九〇〇字、読み一三〇〇字を指導する案をかんがえている。常用漢字のなかから中学生に指導する漢字を精選するために、常用漢字を一字一字検討した。そのさいの基準は次の二つを考えた。1、

ある漢字が一字である語をあらわすか、または、他の漢字と結合してある語をつくるとき、その語が中学生の言語生活でどの程度必要とされるか。

2、生徒にとって学習可能な字数にする。また、国語の授業時間から考えて指導可能な字数にする。検討した結果は国字研パンフ「漢字教育の基本提案」にのせてあります。

御希望の方は事務局まで連絡してください。

(二) 具体的な指導法

——セツト五過程——

国字研では漢字を指導する場合かならず押さえる五過程を定式化した。

第一過程 その新出漢字を含んでいる語を何度も音読して、その漢字の音と字形を結びつける。

第二過程 意義を教える。(訓読みが意味を表している場合がおおい)

※どんな漢字にも字形・音・意義の三要素が総合されている。したがってこの三要素をいかに相互に瞬間的に思いうかべる能力を養うかの指導こそ漢字指導のかなめである。

第三過程 何回も書かせる。筆順にそつての手首の筋肉運動によつて字形を現実化する訓練。肉体化(手首筋肉運動の反射系形成)

第四過程 関連事項の指導。その漢字を使った熟語、部首、似た字形の漢字、同音異義語、同訓異義語、同意語、反意語、類義語など

第五過程 記憶の定着と応用。次の国語の時間、一週間後、一か月後に復習する。作文のなかで使わせる。

★国語国字問題の
参考資料★

一九九〇年八月

▼辞書・字典▲

★『最新JIS漢字辞典』

田嶋一夫監修

日本規格協会編集協力

七六二ページ

(講談社、一九九〇年十一月、
2300円)

【解題】前号でふれたが、一九九〇年秋、JISの情報交換用漢字符号の改定がおこなわれた。従来の第一水準漢字集合一九六五字、第二水準漢字集合三三八八字(計六三三三字)に加え、今回新たに第二水準漢字集合に「凜」「熙」の二字が加わり(九月一日付)「補助漢字」として五八〇一字が制定され(十月一日付)、総計一二一五六字となった。本書はこの改定にあわせて書き下ろされたもので、改定

後最初に発刊された辞典である。(日本規格協会によれば補助漢字のリスト『JIS X0212』の発売は一九九一年一月という。また『JISハンドブック第52巻情報処理・用語コード編』の改訂版の発売は一九九一年六月ごろという。)

ところで、現在発売されている漢字字典・漢和辞典の多くが一九七八年制定・一九八三年改定のJIS漢字コードを本文中に記載しており(あるいはそれに合わせた本文の改訂が無理な場合は別冊付録を添付している)、そのことをうたい文句にしているが、今回の改定と補助漢字の制定にともない、改訂版の発行を準備するところが多いようである。

また、ワープロやパソコンのソフトのなかにも補助漢字を搭載するものが、今後あいついで発売され、短期間のうちにそれらが主流をしめるであろう。

監修者は、今回の改定と補助漢字の制定の背景として、「①適度な漢字の使用がより便利、②ワープロ等情報機器の普及がもたらした日本人の識字能力の変化」があることをあげ、そのねらいを「漢字が無制限・無原則に使われるのを防ぎ、共通の漢字体系を使用することにより、漢字ソフト間の互換性を高め、情報共有がよりスムーズになること」だとしている。さらに各社各機器によってまちまちな文字フォントの現状をあらためるため、JIS規格として今後は、「単に字種・字形を示すだけでなく、文字フォントの共同開発をすすめ公開する」方向にあることを述べている。(九月一日付で改定された第一水準漢字、第二水準漢字を掲げる『JIS X0208(90年版)』では、「平成明朝体」と称する文字フォントも示している。)

今回のようにJIS規格としての漢字を増やすことにつ

いて、「制限漢字をゆるめる方向とは同じではない。むしろ、無制限・無原則に使われるのを防ぐ」ものであると監修者はいうが、はたしてそのとおりと受けとめてよいものだろうか。今回の制定作業の段階でも、どの漢字を入れるかをめぐって、最終的には無原則に近い状態になったと聞く。

印刷業界、情報機器業界の動きとしては、漢字を制限した方が生産性向上につながるといった見方がある一方で、情報技術の向上によって、漢字増加があらたな利潤の追求になると見る面も根強い。歴史学・宗教学・中国語学・医学などの専門用語や地名・人名の漢字のなかには、今回盛り込まれた漢字以外にもまだあるといい、各専門分野からの漢字増の要求も根強い。そのため、今後も数年を置かずしてさらに追加されることが充分予期される。

こうした漢字増の傾向は専

門分野のなかだけでとどまることはなく、広く社会全体に波及し、新聞・雑誌等の用語や教育現場での学習漢字の拡大につながるおそれも十分ある。

▼雑誌特集▲

★『日本語学』十一月号
特集「漢字と情報処理」

文字の型と読みの速さ(山田尚勇)、表記行動と漢字(佐竹秀雄)、失語症患者と漢字(亀井尚)、日本語の意味処理と漢字(首藤公昭)、日本語情報処理システムの発展と現状(伊藤英俊)、外国人漢字学習の認知心理学的諸問題(海保博之)

一九九〇年十一月明治書院

▼雑誌論文・記事▲

★「からだの記憶」(佐々木正人)

『言語』一九九〇年一二月号

大修館書店

【解題】筆者は認知科学専攻。主著に『からだ…認識の原点』(認知科学選書15、東京大学出版会、一九八七年)、論文に「『空書』行動の出現と機能」(『教育心理学研究』31、一九八三年)、「『空書』行動の発達」(『空書』行動の文化的起源」(『教育心理学研究』32、一九八四年)などがある。

本稿は、記憶についての特集のなかの論文。漢字習得の際の「空書き」行動の出現と機能についての筆者の従来からの説をまとめて紹介し、漢字圏の者は文字の形を「からだで記憶している」とする。大久保忠利の「手首化」説と重なる面がある。

★「補助漢字をめぐる」(佐竹秀雄)

『言語』一九九一年一月号、大修館書店

【解題】筆者は国語学専攻。武庫川女子大学言語文化研究所助教授。主論文に「表記行

動のモデルと表記意識」(国立国語研究所報告67『電子計算機による国語研究X』秀英出版、一九八〇年)、「表記」(『講座日本語と日本語教育』明治書院、一九八九年)など。本稿は、十月一日付で制定されたJIS補助漢字について、字体の問題と一般社会への影響にふれている。

今回の制定では、五八〇一字の字種を示したが一字ごとの字体については、規定していない。それをしているのは「明確な論がなく、字体の研究も十分に進んでいないからである」としている。異体字が多いなかで「字体の相違を厳密に区分したい利用者」の間、五八〇一では足りないという不満が起こってくるにちがいない。」と今後予測される状況を述べている。その一方で、今回の制定は一般社会に対しては「基本的には大きな影響が生じるとは思われない」と述べる。「選定された漢字はかなり特殊な

文字が多い」(大漢和辞典にも収録されていない漢字が四二字含まれているという)ので一般の人が目にする場面はごく限られている、「コストや機械的な問題もあって、すぐにワープロやパソコンに導入されることもむずかしいと見られている。」ことなどをあげ筆者は補助漢字の社会的影響は少ないと見る。

しかし、前の項でふれたように補助漢字の制定が、漢字増につながる心配もある。筆者も「この補助漢字がほとんどのワープロ・パソコンに導入されるとなれば、また話は別である。そうなったとき、漢字の字体のこまかな差異を意識する人が増えて、漢字使用に対する人々の意識例えば漢字はめんどうなものだとか、漢字は正しく使うべきだとかの意識が強くなって漢字の使用の方に変化が生じ」「常用漢字が有名無実と化す」危険性も指摘している。

(乗木 養一)

★事務局だより★

『国字問題研究会ニュース』
第二号をおとどけします。こ
の紙面がみなさんのお手元に
とどくころは、一九九一年を
むかえていることかと思いま
す。

激動の二〇世紀も最後の十
年を残すのみとなりました。
国語・国字問題をめぐる状況
もけっしてゆるやかなもので
はありません。戦後国語改革
の精神に逆行する漢字増加政
策にたいしてなすべき私たち
の課題はとて大きいと思ひ
ます。
いままでに増して、ご理解
ご協力をお願いいたします。
年末から新年にかけて国字

研では、会員・読者のみなさ
んに、カンパをお寄せくださ
るようお願いしております。

お近くの事務局員か、題字下
記載の事務局あて、ぜひお寄
せください。よろしくお願ひ
いたします。 (乗木養一)

十月例会

十月二十八日に行いました。
今年の夏季集会で報告したも
のの検討の二回目として、前
月に引き続き、「中学校にお
ける漢字指導」(見城慶和)
をとりあげました。見城氏は
古くからの児言研会員。氏の
論文は『国語の授業』に掲載
されていますが、それを継続
的に研究実践で発展させたも
のです。 (田村利樹)

十一月例会

十一月二十五日に行いまし
た。

① 今年の夏季集会で発表し
たものの検討の三回目。今回
は、小学校中学年分科会の乗
木養一氏の実践をとりあげま
した。今回の指導要領では群
を抜いて漢字数の増加が目立
つこと。「丸」「誕」などが
学習漢字に入ってきたのは、
政治・教育の反動化と軌を一
にすること。指導面では、形

◇国字研へのカンパ◇
…ありがとうございます…

内山みち子様 一万円
見城 慶和様 一万円

声文字の音符に光を当てて指
導することの有効性。特に、
形声文字系列の核(単・反・
可など)から漢字習得の網を
広げていく方法を検討中であ
ることなどが報告されました
② 都教連や民教連の集会に
参加した報告。
(紺屋富夫)

国字研例会のご案内

1月20日日午前10時
2月24日日午前10時
3月24日日午前10時

♡いずれも
東京都教育会館(神楽坂
・エミール)にて 地下鉄
・東西線神楽坂駅下車
♡ぜひご参加ください